

## 栽培漁業効率化推進技術開発研究 ( ガザミ )

( 予算区分 県単独 研究期間 平成 1 2 ~ 1 8 年度 )  
担当 : 水産試験場浜名湖分場

### 【研究の背景とねらい】

ガザミは、浜名湖では「ワタリガニ」「ササガニ」などと呼ばれ、重要な漁獲対象種ですが、漁獲量が減少しています。そこで、湖内への種苗放流により資源回復を図る栽培漁業の技術開発が行われてきました。本研究では、これまでの種苗生産と放流技術の更なる効率化を図るため、次の二点を中心に試験研究を行いました。

- ・ 陸上施設における健全な稚ガニ 3 齢期 (C3) 大型種苗の効率的かつ安定的に生産する技術の開発
- ・ 大型種苗の大量放流によるガザミ資源の増加状況等、その放流効果の検討

### 【研究成果】

- ・ ガザミ放流量と漁獲量の関係から放流効果を検討したところ、天敵であるマダコの影響が少ないと考えられる場合は、鷲津地区 (湖西部) でのガザミ放流量と漁獲量には正の相関が見られ、ガザミ種苗放流による漁獲量の増加が示唆されました。
- ・ 特大サイズ (C5 ~ 7 齢期) のガザミ人工種苗に右遊泳脚指節カット標識を施し、マダコの影響が少ないと考えられる湖北部 (浜松市三ヶ日町佐久米地先) へ放流し、湖央部漁場での漁獲加入状況および放流効果について調べました。その結果、湖北部への特大種苗放流では、漁場での漁獲加入は確認されたものの回収率は 1.58% で、経済効果を得ることは難しいと考えられました。
- ・ 重回帰分析による湖内ガザミ漁獲量の変動要因を検討した結果、得られた重回帰式から「ガザミ C3 齢期種苗 100 万尾を湖央部漁場に放流することにより、3.5 トンの漁獲量増加が見込まれる」と示唆されました。



ガザミ放流種苗 (C3 齢期)



採捕された放流ガザミの標識 (再生痕)

### 【研究成果の普及方法】

- ・ 大型種苗を陸上施設で効率的に生産し、従来の海域での中間育成を省くことにより、放流種苗のコストを下げることができ、実質的にガザミ栽培漁業の効率化が図られます。
- ・ さらに、大型種苗の湖央部漁場への大量放流による放流効果や経済効果を基に適正放流量や適正放流地を明らかにすることで、労力・費用の面で効率的なガザミ種苗放流が可能となり、ガザミ栽培漁業の更なる効率化が図られます。

( 作成 平成 1 9 年 3 月 )